

関係性精神療法セミナー

共感と解釈

現代の精神分析においては、欲動とその防衛の分析以上に、関係性のあり方の分析が重要視されている。精神分析は心の中を客観的に観察し記述するものから、繰り返される関係性の布置を今 - ここにおいて扱うものへと大きく変化してきた。現代のアメリカの精神分析の新しい流れを総括する関係精神分析（関係論）および関係性精神療法は、分析的な治療プロセスを患者と治療者の相互交流により創造され、構築されるものと捉える。関係性理論は多くの学派に開かれた理論であり、精神分析の将来を担うものである。日本の精神分析でも、その基本理念はようやく少しずつ浸透してきている。2011年から6年にわたる当セミナーや精神分析学会の教育研修セミナーにおける企画を通して、徐々にその理解が広がりつつある。

このセミナーではこれまで、エナクトメント、動機づけシステム、夢、外的現実と心的現実、逆転移などのテーマを扱ってきた。今年は「共感と解釈」を扱う。臨床家は、他者である患者が語る内的世界を理解しようとし、その理解を患者に伝える。それは精神分析臨床の—あるいは、すべての臨床活動の—基本的な営みである。臨床家は、「共感」という言葉によって、患者の何をどのように理解しようとしているのだろうか。臨床家は「解釈」という言葉によって、患者に何をどのように伝えているのだろうか。共感も解釈も、精神分析や精神分析的な精神療法を行う者が用いる最も基本的なツールである。精神分析そのものを再検証する関係精神分析は、共感を単に暖かいやさしい態度を意味するものとみたり、解釈をただ患者の知らない無意識を記述するものとみたりしない。今回のセミナーは、参加者とともにもう一度私たちの臨床的姿勢を問い直すためのものである。初学者は自分が習った共感と解釈はなにか、経験者は自分が理解する共感と解釈はなにか、自ら問い直しつつそれぞれの意見を持ち寄ってほしい。

参考文献：岡野憲一郎・吾妻壮・富樫公一・横井公一著（2011）『関係精神分析入門』（岩崎学術出版社）
岡野憲一郎編著（2016）『臨床場面での自己開示と倫理』（岩崎学術出版社）
岡野憲一郎著（2015）『解離新時代—脳科学、愛着、精神分析との融合』（岩崎学術出版社）
吾妻壮 著（2016）『精神分析における関係性理論：その源流と展開』（誠信書房）
富樫公一著（2016）『不確かさの精神分析』（誠信書房）

◆ 日 時：2017年7月23日（日曜日） 午前10時～午後3時
（進行具合により多少の延長も考えられます）

◆ と ころ：TKP市ヶ谷カンファレンスセンター
162-0844 東京都新宿区市谷八幡町8番地

◆ 発表者：吾妻壮（神戸女学院大学）・富樫公一（甲南大学）・岡野憲一郎（京都大学）・

◆ 司 会：岡野憲一郎

◆ 受講料：7,000円

◆ 定 員：60名

◆ 申込方法：参加申込書にご記入の上、郵送またはFAX・Eメールでお申し込みください。

受講の可否をはがき及び申込書に記載のEメールにてご連絡いたしますので、振込み先をご確認の上、受講料をお振込みください。

◆ 申込先：〒160-0004 東京都新宿区四谷3-4 SCビル6階
小寺記念精神分析研究財団セミナー事務局 FAX 03-3350-9749
E-mail：kodera.kt@nifty.com

◆ 申込期限：2017年7月14日（金）

主催：小寺記念精神分析研究財団

関係性精神療法セミナー参加申込書

「共感と解釈」

2017年7月23日(日)

本参加申込書は、下記住所まで郵送または FAX・E メールにてお送り下さい。※Eメールの場合は、件名「7月23日開催セミナー申し込み」として、本文に下記必要事項をご記入下さい。

〒160-0004 東京都新宿区四谷 3-4SC ビル6階
小寺記念精神分析研究財団事務局

FAX (03) — 3350 — 9749

申込期間 7月14日(金)まで期間厳守 申込 月 日

フリガナ 氏名		男・女(19年生)	
勤務先			
所属		職種	経験年

(どちらかを○で囲んでください) 自宅・勤務先

連絡先 住所	〒		
自宅	電話	FAX	
勤務先	電話	FAX	
e-mailアドレス			

参加費：7,000円

*先着順に受け付けます。参加の可否については、受付後順次連絡先住所にはがきまたは申込書に記載のEメールアドレスに連絡いたします。その際振込先もご案内いたします。
定員になりしだい締め切ります。

本セミナーをどのようにして知りましたか?該当する箇所に○を付けて下さい。

郵便・ホームページ・メール・知人の紹介・その他()

※記載いただいた個人情報は、セミナーのご連絡及びご案内のみに使用いたします。